

石巻健育会病院 リハビリテーション部

津田 佳代(リハビリテーション部 理学療法科科长/理学療法士)

功 績 令和8年10月より算定開始を予定していた「回復期リハビリテーション強化体制加算」を3ヵ月前倒しで算定できる体制を構築し、病院の筋肉質な経営に大きく貢献した功績。

推薦者氏名 Ma-D 小柳 拓也

推薦理由 津田科長は回復期リハ病棟の統括として、令和8年の制度改定に対し一早くから情報を収集し、部の代表として当院の今年度方針の決定に参画してきました。強化体制加算の算定が方針として決定してからは、新制度に即した計算方法でアウトカムを洗い直し、前倒しでの算定開始の可能性を見出しました。さらに基準達成に向け既存の仕組みを見直すとともに、新たな枠組みを構築し、結果として3ヵ月前倒しで加算算定を実現し、月約130万円の売り上げに貢献しました。

法人の理念・方針をいち早く理解し、稼働だけに左右されることの無い「筋肉質な経営」に多大に貢献した津田科長を理事長賞に推薦いたします。

内 容

当院では令和8年度の診療報酬改定における「回復期リハビリテーション強化体制加算」を10月から算定することを目標に掲げ、体制を構築する計画を立てていました。

津田科長はリハビリテーション部の回復期病棟統括者として、方針が決定した3月から即座に行動を開始、新制度での計算式に基づいて過去のアウトカムを洗い直していく中で、10月よりも早期からの算定の可能性に気づきました。そこで、①他部署を巻き込み、病棟ミーティングにおけるアウトカムから除外する患者の選定の時期と共有内容の見直し、②回復期リハに少人数チーム性を導入、各リーダーに自チームのアウトカムを管理させることでより細やかに指数を管理、③自ら紹介元への患者実調に同行、専門性を活かした予後予測を行い、入院の時点から退院の方向性と時期を患者家族も交えて共有、④LINEWORKS等を活用し、グループ内外含め後方連携を強化し退院時期を適切に設定する、等の仕組みを打ち出しました。

その結果、予定よりも3ヵ月前倒しで加算算定開始を実現しました。自ら先頭に立つだけでなく、院内の他部署はもちろんのこと、他事業所も巻き込んだOur teamでアクションを起こし、患者稼働だけに左右されることの無い「筋肉質な経営」の実現に大きく貢献しました。いち早く法人の方針・理念を理解して行動を起こし、結果に結びつけた今回の行動は他の模範とすべきところであると考え、理事長賞に推薦いたします。